



岡部株式会社

経団連自然保護協議会主催の懇談会に登壇

～ 海藻種苗生産技術による生物多様性と脱炭素への貢献事例を発表 ～

建設関連製品事業や海洋事業等を展開する岡部株式会社（本社：東京都墨田区、代表取締役 社長執行役員：河瀬博英）は、2026 年 9 月 16 日（水）に開催された、経団連自然保護協議会主催「生物多様性・自然資本保全に関する統合的取組みの促進に向けた懇談会（第 3 回）」に登壇いたしました。



登壇したサステナビリティ推進部 部長 後藤新一（左）と応用藻類学研究所 副所長 林裕一（右）

本懇談会は、経団連および経団連自然保護協議会が 2025 年 11 月に公表した「生物多様性・自然資本保全に関する統合的取組み事例集」を踏まえ、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー、ネイチャーポジティブを横断した企業の先進的な取組みへの理解を深めることを目的として、全 5 回にわたり開催されているものです。

第 3 回となる今回は「水産・海洋」をテーマに開催されました。単なる社会貢献にとどまらない「本業との関連性」をはじめ、「新規性」「地域との連携」「汎用性」「ファイナンス」「社会変革」という 6 つの評価ポイントにおいて、当社の海洋事業部の取組みが高く評価され、事例紹介企業 2 社のうちの 1 社として選出されました。

■当日の発表内容

「海藻種苗生産技術で生物多様性と脱炭素に貢献」と題し、以下の技術開発について発表を行いました。

・島根県隠岐を拠点とした海藻研究と事業展開

島根県隠岐郡海士町の「応用藻類学研究所」を拠点に、海藻種苗生産技術や藻場礁の開発など、次代を担う応用研究を行っています。

・生物多様性に貢献する海藻活用技術の開発

「磯焼け」対策として、海域に適した海藻種苗の大量生産・移植技術を確立しています。高水温化に対応するため南方系種の完全養殖技術にも取り組み、水産有用種の生息場形成に貢献しています。

・脱炭素に向けた養殖技術の開発

ブルーカーボン事業化に向け、水深 2～18m の空間を立体的に活用する「多段式養殖技術」を開発しました。現在、6 段以上の生産を行っており、従来と同じ海面占有面積で 6 倍以上の生産量を確保できます。海面利用率と生産効率を向上させることで、CO2 吸収源の拡大を目指しています。



質疑応答において、当社は海洋をフィールドとする事業推進の難しさと展望について説明しました。海洋事業は漁業関係者や行政機関との合意形成が不可欠であり、環境情報や生物情報をリンクさせた効率的なアプローチが今後の課題解決に繋がると言及しました。当社が長年培ってきた漁業協同組合等との強固な地域ネットワークを活かし、他企業との協業や共同研究を積極的に進めたいと広く呼びかけました。

当社グループは、長期ビジョンである「okabe コーポレートビジョン 2040」のもと、「気候変動、地球温暖化」「環境保全、脱炭素、資源循環の実現」「海洋資源の維持」をマテリアリティの一つとして特定しています。実現に向けた取り組みを実践し、ネイチャーポジティブ及びカーボンニュートラル社会の実現を目指してまいります。

(関連)

環境課題解決型製品 <https://www.okabe.co.jp/sustainability/environment01/>

社会課題を解決するブルーカーボン事業

<https://www.okabe.co.jp/assets/pdf/sustainability/bluecarbon.pdf>

〈本件に関するお問い合わせ先〉 [岡部株式会社](#)

海洋事業部

TEL: 03-3624-9207 MAIL: info-bc@okabe.co.jp

経営企画室 サステナビリティ推進部

TEL: 03-3623-6136 MAIL: a008@okabe.co.jp